☆．宮城県における調査結果概要

○宮城県内を流れる河川とダムにおいて貴重種を多数確認！
　様々な生物にとって、良好な生息環境を維持している。
○特定外来生物として指定されたアレチウリ（植物）が七ヶ宿ダムにて
　初めて確認！

【宮城県内調査結果概要】

　下表に2巡目調査と平成16年度調査の種数について示します。

　前回調査と今回の調査を比較すると、特に阿武隈川では底生動物が前回調査よりも多く確認されました。これは、今回調査を実施した全国27河川の中で最も多い河川でした。一方、特定種では今回の調査で絶滅危惧Ⅰ類のオジロワシ（鳥類）が鳴瀬川で、準絶滅危惧種のモノアライガイ（底生動物）が阿武隈川で新たに確認されました。このように、宮城県内の河川とダムは、生物にとって良好な環境を保っており、貴重な生物の生息空間となっていることが伺えます。



表　宮城県内の河川とダムにおける調査実施項目と確認された種

河川名 ダム名	調査項目※1)											
	魚介類		底生動物		植物		鳥類		両生類 爬虫類 哺乳類		陸上昆虫類等	
調査年次	2巡目	H16	2巡目	H16	2巡目	H16	2巡目	H16	2巡目	H16	2巡目	H16
北上川※2)											2092	2096
											7	7
鳴瀬川							89	101				
							9	8				
名取川									17	22		
									1	0		
阿武隈川※3)	88	91	200	292								
	7	7	2	4								
鳴子ダム					640	857						
					4	5						
釜房ダム					721	753						
					10	5						
七ヶ宿ダム					932	962						
					10	7						

注1）表中の上段の数字は確認された全体の種数を、下段は特定種の種数を示しております。
注2）北上川における陸上昆虫類等調査の種数は、今回調査を実施した岩手県分側の調査結果を含む北上川全体の種数を示しております。
注3）阿武隈川における魚介類調査および底生動物の種数は、今回調査を実施した福島県分側の調査結果を含む阿武隈川全体の種数を示しております。

【各調査項目のポイント】

◆魚介類･底生生物

阿武隈川において平成１６年度に魚介類･底生生物調査を実施した結果、特定種としてはメダカ（絶滅危惧ⅠⅠ類）、ホトケドジョウ（絶滅危惧ⅠＢ類）などを含む 5 種が確認されました。メダカは、１９９９年に環境省（庁）が公表したレッドリストの中で、絶滅の恐れがある種（絶滅危惧ⅠⅠ類）として掲載され話題を呼び、その減少した原因については、農業用水路や河川がコンクリート張りにされたことなどが考えられております。同様に底生動物調査を実施した結果、特定種としては、コオイムシ（準絶滅危惧種）を含む 4 種が確認されました。なお、確認種数は 292 種であり、今回調査を実施した全国 27 河川のうち、最も多い結果となりました。

メダカ（阿武隈川）





写真：
【上】 国土交通省 仙台河川国道事務所
【下】 国土交通省 福島河川国道事務所

阿武隈川は全国的にみても、多様な生物生息環境を持つ河川といえます。

◆鳥類

鳴瀬川において平成１６年度に鳥類調査を実施した結果、これまでの調査で確認されていなかった猛禽類のオジロワシが初めて確認されました。オジロワシは国の天然記念物（文化財保護法）および国内希少野生動物種（種の保存法）に指定されており、また、環境省レッドデータブック（２００２）で絶滅危惧ⅠＢ類に指定されている種です。これら猛禽類は周辺の生息環境の変化に敏感に反応し、生息域を変える為、今後も、継続的にモニタリングを実施していく必要があります。

オジロワシ（鳴瀬川）



写真：国土交通省 湯沢河川国道事務所
※写真は平成１３年度調査で撮影されたものです。

◆両生類･爬虫類･哺乳類

名取川において平成１６年度に両生類･爬虫類･哺乳類調査を実施した結果、爬虫類ではアオダイショウ、哺乳類ではタヌキ類やキツネ類が確認されるなど、生態系上位種が生息するのに適した環境を有しているものと推測されます。

◆植物

鳴子ダム、釜房ダム、七ヶ宿ダムにおいて平成１６年に植物調査を実施した結果、約８００から９００種の植物が確認されました。特に、七ヶ宿ダムの確認種は９６２種であり、今回調査を実施した全国の２９ダムのうち、最も多く確認されました。また、特定種では絶滅危惧ＩＢ類のヒメサユリが七ヶ宿ダムで確認され、今回調査を実施した全国２９ダムの中で唯一の確認でした。ダム周辺の自然環境が、植物にとって貴重な生息空間となっていることがいえます。

七ヶ宿ダムにて確認された
開花前のヒメサユリ



写真：
国土交通省　七ヶ宿ダム管理所

【外来種の傾向】

◆魚介類

平成１６年度の阿武隈川における魚介類・底生生物調査で、特定外来生物として指定されているブルーギル、オオクチバス、コクチバスの３種が、平成１１年度の調査から引き続き確認されました。（下表参照）　特に、阿武隈川で確認されたコクチバスは、体調が約１０cm以下の小型の個体が多数確認されていることから、河川に定着し、再生産している様子が伺われます。これら外来魚は、在来の魚類を捕食することで問題となっており、在来魚類への影響が心配されるため、今後も継続的にモニタリングを実施していく必要があります。

阿武隈川にて発見された
小型（１０cm程度）のコクチバス



写真：国土交通省　福島河川国道事務所

表　阿武隈川における外来魚の確認状況経年変化

調査年度／外来種	調査年度			
	平成 2 年度	平成 6 年度	平成 11 年度	平成 16 年度
ブルーギル	×	●	●	●
オオクチバス（ブラックバス）	●	●	●	●
コクチバス	×	×	●	●

凡例●　：　確認
×　：　未確認

◆鳥類

鳴瀬川において平成１６年度に鳥類調査を実施した結果、外来種ではドバト等の２種が確認されました。これは、今回調査を実施した全国２６河川のうち、最も外来種が確認された河川８種と比べ、比較的少ない結果となっておりますが、今後も継続的にモニタリングを実施して種数を把握していく必要があります。また、今回の調査で鳴瀬川では特定外来生物は確認されませんでした。

◆両生類･爬虫類･哺乳類

名取川において平成１６年度に両生類･爬虫類･哺乳類調査を実施した結果、両生類ではウシガエルが、爬虫類ではミシシッピアカミミガメ等の外来種５種が確認されました。ウシガエルは、在来種への影響が心配されるとして、平成１８年２月１日に特定外来生物として二次指定された種です。在来種への影響を把握する為、今後も継続的にモニタリングを実施していく必要があります。

ミシシッピアカミミガメ（名取川）



写真提供　：
国土交通省　仙台河川国道事務所

特定外来生物として指定された
ウシガエル（雄物川）



写真提供　：
国土交通省　湯沢河川国道事務所

◆植物

鳴子ダム、釜房ダム、七ヶ宿ダムで平成16年に植物調査を実施した結果、これら3ダムにおいて111種の外来種が確認されました。また、平成18年2月1日に特定外来生物として指定された植物8種のうち、アレチウリ、オオキンゲイギク、オオハンゴンソウの3種がこれらのダムにて確認されました。また、今回の調査で、アレチウリについては、これまでの調査で確認されていなかった七ヶ宿ダムにおいて、初めて確認されました。(下表参照)

表　鳴子ダム、釜房ダム、七ヶ宿ダムにおける
アレチウリ(特定外来生物)の確認状況経年変化

調査ダム／確認有無	調査年度			
	平成 5 年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 16 年度
鳴子ダム	×	×	－	×
釜房ダム	●	－	●	●
七ヶ宿	×	－	×	●

凡例● ： 確認
× ： 未確認
－ ： 未調査(調査を実施していない年度)

アレチウリは、北米原産のつる性の一年草で、輸入大豆に種子が混入して侵入したと考えられています。つるの長さは数 m にもなり、草木などに絡まって周囲に広がります。他の植物に覆い被さってしまうと、アレチウリの下の植物は日光が届かず枯れてしまうこともあり、在来種への影響が心配されます。在来種への影響を把握する為、今後も継続的にモニタリングを実施していく必要があります。



アレチウリ

写真 ： (財)リバーフロント整備センター
「川の自然をみつめてみよう② ～河川の外来種図鑑～」 より